

点描ぐんま経済

日銀支店長

見聞録

■116■

前橋市の週末の最高気温が40度近いという予報を聞いて、これはたまたまなと思い、急ぎよ金曜日の夕方に避暑旅行を計画した。

日銀の前橋支店長は、緊急時などに備えて県内に留まるようにしているので、地図を眺めて北軽井沢を選んだ。足腰の強化も兼ねて、JR吾妻線に自転車に乗せていくことにした。

涼いうちに移動しようとして朝5時半に起床。新前橋駅まで自転車で行き、専用の袋（輪行袋）に収納してホームに降りたら電車が来ていた。迷

夏の北軽井沢

わず乗り込んだら「次は『前橋』のアナウンス。吾妻線ではなく間違って両毛線に乗っていた！自分の不注意さがっ

人流の回復を実感

かりしたが、気を取り直して新前橋駅に戻り、予定より1時間以上遅れて再スタート。

吾妻線の長野原草津口駅で自転車を組み立て、約20分先の鬼押し出し園をを目指す。上り坂が続くので汗びっしょり。休憩を兼ねて立ち寄ったそば店は長蛇の列。すっかりコ

ロナ禍前の消費活動に戻っているようだ。約1時間待った後で頂いたそばは大変おいしかった。

午前中に着くはずだった鬼押し出し園に到着したのは午後2時。上毛かるたの「あ」札に登場する有名な観光地だが、訪れたのは初めて。浅間山の噴火でできた奇岩を眺め

て歩きながら振り返ると、真っ青な空、白い雲と、深緑色の山々のコントラストが美しかった。

りにしたため、シャワーで汗を流した後、再び自転車で夕食に向かう。しかし、行きたかった店はどれも満席や貸切、1時間待ちの行列などで諦めざるを得なかった。周辺を探し回って雰囲気の良い店を見つけたことができたが、ここ数年、観光客が少ない状態に慣れて

北軽井沢の宿は素泊まりの状況に戻っていると続

計アータで分かったつもりだったが、改めて観光需要の高まりを肌身で感じた。コロナ禍で大変な苦勞をされた観光業の方々には、待ちに待った人流の回復だと思

夜の北軽井沢は涼しく、エアコンなしで眠ることができた。本当は夜中に起きて星空を見たかったのだが、昼間の自転車で疲れ果て、朝まで熟睡して

しまった。今回は準備不足で失敗の多い旅だったので、次回は事前にかりと計画を練って再訪したい。

肥後秀明（ひご・ひであき）

1969年生ま

れ。茨城県出身。東京大経済学部卒。92年に日本銀行入行後、金融機構局考査企画課長兼上席考査役、金融機構局考査運営課長兼上席考査役などを歴任。2022年4月から現職。

